

ほけんだより

令和8年9月30日

豊島区立朋有小学校

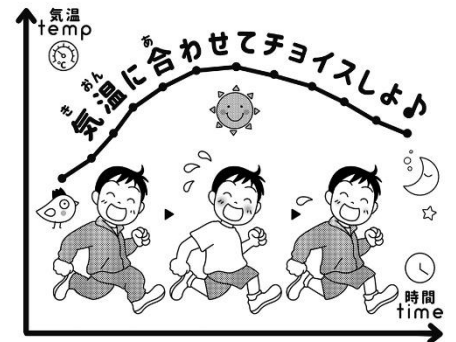
校長 石川 悦子

No.6

インフルエンザが流行っています

今シーズンは例年よりも早くインフルエンザが流行り始め、朋有小にもあっという間に流行の波がやってきました。インフルエンザはふつうのかぜよりも症状が重く、専用の薬を飲まないと回復に時間がかかるため、毎年話題になります。

予防の基本は、手洗い・せきエチケット・空気の入れ替えです。学校はたくさんの方が生活する場ですので、一人一人が予防する意識をもってください。みんなでおたがいを思いやりましょう。



10月10日

10月
10日

目の愛護デー



10月の保健目標：目を大切にしよう。

勉強にも遊びにも大活やくの目。でも使いすぎると、やっぱりつかれてしまうようです。いつもがんばっている目を大切にしましょう。

目にやさしい生活をしましょう 7つのまちがいをさがし 答えは 保健室前です。



10/5(月)から、歯みがき指導(10/15)で使う道具を学校に置いておきます。

9月にお知らせしたとおり、10/15(木)の歯みがき指導で使う道具を、前もって学校に持ってきて置いておいてください。当日は、歯ごうの染め出しがあります。服をよごさないで、染め出しに集中できるように、忘れ物のないように準備しましょう。

おうちのかたへ

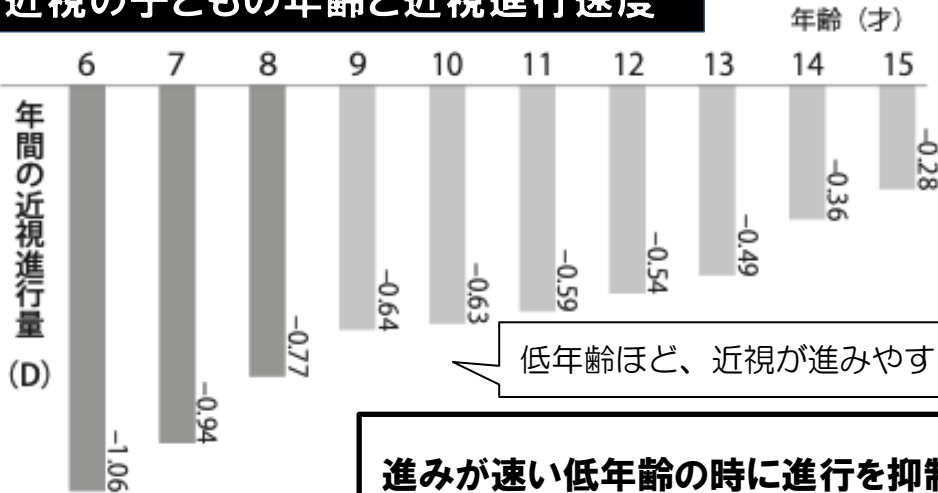


子どもの「近視」について

公益社団法人 日本眼科医会常任理事
近藤永子先生のR7講演の一部を紹介します。



近視の子どもの年齢と近視進行速度



低年齢ほど、近視が進みやすい

進みが速い低年齢の時に進行を抑制することが大切

D= 屈折度数

Sankaridrug and Holden, 2014 参照

近視を発症した年齢とその後の進行



赤線：近視発症年齢が3～6歳
(眼鏡が最初に処方された年齢)

強度近視は、将来目の病気を発病する確率が高い

n = 928

低年齢で近視になると、その後、強度近視(−6.0D 以上)になりやすい

児童生徒の経年変化（令和3～5年度）を解析した近視実態調査で、“学年が上がるごとに近視の定義に該当する児童が増えており、この変化は特に小1→小3 と 小2→小4で大きかった。”と報告されています。

春の健康診断で、視力が両眼 A でない場合は結果の用紙を発行しました。「まだ B だから」と様子を見るのではなく、念のための受診をお勧めいたします。